



発行 兵庫区青少年記者クラブ

〒652-0032
 神戸市兵庫区荒田町2-18-20 湊川プラザ2F
 ユーステーション兵庫内
 青少年記者クラブ事務局
 ☎078・381・5584

主催 兵庫区役所
 協力 兵庫地区青少年育成協議会
 企画・運営 NPO法人こべユースネット
 編集・製作協力 神戸新聞社
 印刷 神戸新聞総合印刷

「HyogoPepper」は、公募により集まった高校生記者10名からなる兵庫区青少年記者クラブが、兵庫区のまちを中心に取材、作成した新聞です。

ノエスタ ピッチの芝が「復活」

グラウンドキーパーの奮闘実る



J1に所属するサッカーチーム、ヴィッセル神戸のホームグラウンドであるノエビアスタジアム神戸。全国で唯一開閉式の屋根を持ち、サッカーはもちろんラグビーの試合や様々なイベントでも利用される同スタジアムだが、近年大きな問題が発生していた。それはピッチの芝の状態の悪化だ。

ノエビアスタジアムは2002年に開催されたサッカーの日韓ワールドカップに合わせ、建設された。ワールドカップ開催当時は屋根がなかったため、日当たり、風通しともによく、芝の育成は問題なく行われていた。

しかし、ワールドカップ終了後、状況が変わる。近隣住民との話し合いの結果、騒音防止のために屋根を設置することになったのだ。その結果、日光が4時間ほどしか当たらず、風通しも悪くなってしまった。ワールドカップの1年後の2003年に行われたラグビーの試合では、選手が踏ん張ることもできなくなってしまったという。そして、2015年の夏には芝の状態の悪化により、急きょユニバー記念競技場で試合を行わざるを得なくなったほどだ。

芝には夏芝と冬芝の2種類がある。夏芝は暑さに強く、冬芝は寒さに強い。ノエビアスタジアムのある神戸は季節によって気温の差が激しいため、夏と冬で芝を張り替えないといけない。前述のとおり日の当たる時間が短く、芝がきちんと育たないため他の場所で育



今までの問題を思わせないほどきれいな芝の様子



グラウンドを整備するグラウンドキーパーの方。グラウンドキーパーの方に話を伺う記者。左の機械はLED照射器

てた後に芝を全面張り替えないといけない。しかし、環境の変化や芝の使いすぎにより、根が縮んで剥がれやすくなる。そのような厳しい環境の中で、芝やグラウンドの整備に当たるグラウンドキーパーの努力の甲斐があり、現在、芝はここ10年で一番良好な状態にまで回復しているようだ。

ノエビアスタジアムでグラウンドキーパーを務める山中乾司さんは「屋根がある影響で日照や風通しに問題がある場合はよりいっそう管理が難しくなる」と話す。芝の状態を維持するためにLEDの光を当てて芝を強くしたり、土壌の水分量を調節したりしているそうだ。特に夏場は、「何らかの対策をとらないと死んでしまうので管理が大変だ」という。昨年の夏に芝の状態が悪化してしまった際には、グラウンドキーパーの方々は家に帰るのも惜しんで、芝の整備をしたそうだ。

日照や風通しに悪影響を与えている開閉式の屋根だ

が、雨が降っていても試合や大きなイベントを行うことができるなど受ける恩恵も大きい。ちなみに屋根の開閉にかかるコストは1回の開閉あたり1万円もかからないそうだ。

それ以外にもノエビアスタジアムの魅力はたくさんある。ピッチと同じ高さの位置にあるレストランからサッカーやラグビーを観戦することは、小さな子供や高齢者の方にはうれしい工夫だ。

昨年は様々なメディアでノエビアスタジアムの芝の状態について取り上げられ、グラウンドキーパーの方々は大変な思いをしたそうだ。グラウンドキーパーの方々の努力により、とてもいい状態になったノエビアスタジアムの試合に足を運び、芝の様子をぜひ確かめてほしい。

記事・写真 岩崎 洋矢
 谷水 風太
 藤井 晴斗